

タイの工業団地について その5～バンコク中心部より東部③～



前回に続き、工業団地情報の続き（バンコク中心部より東部）をレポートします。

【ウェルグロー工業団地】

1989年に完成した工業団地で、バンコクからおよそ47kmのチャチェンサオ県に位置し、移動は50分程度である。バンコクから近く、通勤や物流のアクセスが便利で、日系企業も化学製品や家電メーカーが多く入居している。

<主な日系入居企業>

パナソニック

協和化工

三井東圧化学

中国塗料

【ゲートウェイシティ工業団地】

1988年に完成した工業団地で、バンコクからおよそ80kmのチャチェンサオ県に位置し、移動は1時間15分程度である。強固な地盤の上に団地所有の貯水池を備えており、裏手の山から貯水池にかけての緩やかな傾斜が洪水問題を緩和している。一般工業区画と、輸出製

品の製造を主とする工場のための輸出加工区があり、工業団地内には、ショッピング街、居住施設なども完備している。

<主な日系入居企業>

トヨタ自動車

いすゞ自動車

大林組

関西ペイントユアサ

【レムチャバン工業団地】

1982年に完成した工業団地で、バンコクからおよそ150kmのチョンブリー県に位置し、移動は1時間45分程度である。レムチャバン港より1kmに位置しており、物流の拠点として申し分ない。日本人が急激に増えているシラチャーに近く、家族同伴の赴任の場合には、バンコクではなく、シラチャーに住居を構える駐在員が近年多くなっている。

<主な日系入居企業>

富士通

いすゞ自動車

三菱自動車

山九

最後になりますが、タイニュース (NNA) で、前回のアマタナコーン工業団地の関連記事がありましたので、紹介します。

出典：NNAバンコク (2014年11月25日付)

◇アマタナコーン工業団地 (チョンブリー地区)

(運営母体のアマタ・コーポレーションは) ベトナムで2ヶ所の工業団地を開発しているが、3ヶ所目の開発を検討していることを明らかにした。ベトナム北部に造成する予定で、建設用地を現在選定中であり、来年中に用地を確定し、開発計画を具体化させる見通しである。アマタ・コーポレーションは現在、ベトナムで2ヶ所目となる工業団地「アマタシテイ・ロンタイン」の開発に取り組んでいる。ホーチミン市に隣接する南ドンナイ省の8,031ライ (約 1,284 ヘクタール) の敷地に住宅などを併設した複合工業団地を開発する計画で、

今年8月にベトナム政府の認可を取得した。

次回も、東部地域の工業団地を紹介します。

<これまでの岡山県タイビジネスサポートデスクレポートは、[こちら](#)から>

【岡山県タイビジネスサポートデスク】

<<日本国内デスク ([株式会社アークビジネスサーチ](#)内) >>

【所在地】：東京都千代田区神田小川町 1-11-8 大竹ビル7階

【担当者】：志賀 敦（しが あつし）

<<タイ/バンコク現地デスク ([ARK ENTERPRISE CO., LTD.](#)内) >>

【所在地】：138 Boonmitr Bldg., 3rd Floor, Rm. A2, Silom Rd., Suriyawong, Bangrak
Bangkok, 10500 Thailand

【担当者】：福田 淳（ふくだ じゅん）

※「岡山県タイビジネスサポートデスク」では、岡山県内に事業所を有する企業や経済団体等のタイでの事業展開を支援しています（岡山県からの委託業務）。ご利用にあたっては、[「岡山県タイビジネスサポートデスク」利用の手引き](#)をご覧ください。また、[岡山県産業企画課マーケティング推進室](#) (086-226-7365) までご相談ください。

※本レポートは岡山県内企業のタイでの事業展開の一助とするため作成されたものであり、サポート対象に該当しない個別のお問い合わせには対応しておりません。